

夢を

追って

夢を追い続ける大人たち。これまでの道のり、将来の目標、そして子どもたちへのメッセージを届けます。

体長約1mmの線虫を使い、ガンを早期に発見し、多くの人へ安心できる未来を！

株式会社HIROTSUバイオサイエンス 代表取締役 広津 崇亮氏



野球やテニスに夢中だった少年時代

私が設立した会社「HIROTSUバイオサイエンス」は、線虫を使ったガン検査の研究を行っています。検査に使う線虫はもともと、土壌に生息する生き物で体長は1mmほど。鋭い嗅覚を持っています。

私たちは、この線虫がガン患者の尿に含まれる特定のにおいを好むことを突き止め、ガンの早期発見につながる検査の実用化へ向けた準備を進めています。

「子どもの頃から生き物が好きだったんですか？」

「生き物好きが高じて、線虫の研究にチャレンジしたんですか？」

雑誌や新聞のインタビューではよく聞かれますが、実は生き物が特別好きだったわけではなく、研究者に憧れていたわけでもありません。

小学生の頃は、野球好きの普通の小学生でした。甲子園で清原・桑田のK&Kコンビが活躍する姿を見て興奮したのを今でも鮮明に覚えています。

両親はそこまで教育熱心ではなく、「勉強しろ！」と言われることはほとんどありませんでした。自分で必要だと思えば机に向かう子どもでしたから、親も敢えて口出ししようとはしなかったのでしょう。ただ、私が「顕微鏡でいろいろな生き物を見たい」「甲子園で野球観戦がしたい」と言ったときは、希望をかなえてくれることが多かったですね。そういったサポートが好奇心アップにつながり、両親には深く感謝しています。

小学校卒業後は地元の公立中学校に入学し、部活で軟式テニスをやるようになりました。坊主頭の野球少年より

●ひろつ たかあき

- 1972年 山口県生まれ
- 1991年 東大寺学園高校卒業後、東京大学理科Ⅱ類に入学
- 1997年 東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻修士課程修了。サントリーに入社する
- 1998年 サントリーを退社し、東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻博士課程入学
- 2001年 博士課程修了。博士(理学)取得
- 2005年 京都大学大学院ポスドク研究員などを経て、九州大学大学院で教鞭を執る
- 2016年 株式会社HIROTSUバイオサイエンスを設立

もテニスの方が女の子に注目されるかなと思って(笑)。学校の勉強は、理系が特別好きだったわけではなく、どの教科も万遍なく好きでした。

部活動が終わった中3からは塾通いをスタート。中1から通っている塾生とは歴然とした差があり、最初は苦勞しましたね。ただ、基本的に何かを学ぶことが、新しい知識に触れることは好きで、必要とあらば何時間でも勉強できるタイプなんです。そして、努力を続けるうちに今まで解けなかった問題が解けるようになり、点数にも反映され、ライバルとの差もなくなっていき、それがうれしくて高校受験の勉強をがんばり、努力の末、東大寺学園高校に入学しました。

東大寺学園高校の自由な校風は、私の性格に合っていましたね。制服がなく、生徒の自主性が尊重される。その代わり、成績がダウンしても誰からも何も言われない。今は違うかもしれないませんが、当時は補習もほとんどなかった。だから、自分で何とかするしかない。中学までは上位の成績でしたが、高校生の最初の中間テストは真ん中くらいの成績。相当、焦りましたね。

東大寺学園中学校から進学してきた生徒の中には、高1の時点で高校で学ぶ数学をほぼすべて理解しているような秀才がいて、そういう人たちと競い合っていくのはならない。私は部活にも入らず、お尻に火がついた状態で猛勉強し、次のテストからは上位へ

食い込むことができな

高2からは進学塾にも通うようになったのですが、そこは東大寺学園をはじめ関西の進学校に通う生徒たちが集まる、知る人ぞ知る進学塾。私は数学だけを習っていたのですが、塾の先生の教え方がとてもわかりやすく、初めて数学が好きになりました。

医学部か? それとも……高校卒業後の進路に悩む

理系の成績上位者は東大医学部を目指すのが当たり前。

当時の東大寺学園にはそんな空気があり、私も学校の先生から医学部受験を勧められました。ただ、学校の成績だけで医学部を目指すいいものか迷っていて……。けれど、ほかにやりたいことも見つかっていませんでした。

そんなとき、塾の先生から「これからは生物学の時代だ」とアドバイスされたんです。確かに、その後、バイオテクノロジーの研究が急速に進み、「ネイチャー」や「サイエンス」など名だたる科学専門誌が生物学の記事にあふれている現在に鑑みると、塾の先生には先見の明があったのだと思います。もちろん、高校時代の私がそこまで深く理解していたわけではありませぬ。しかし、塾の先生のひと言がきっかけ

「過去の自分から質問!」

どうしてそんなにがんばることができたの?

となり、大学では生物学をやろうと決心し、東大理科II類に入学しました。

ただ1、2年生の頃はテニスサークルで活動したり、友だちを増やすなどして青春を謳歌していた時間の方が長かったように感じます(笑)。でも、それが無駄だったとは思いません。多くの人と接し、コミュニケーションの重要性を実感でき、視野も広がった。それは今の仕事にも確実に役立っています。

自分で物事を判断し信念を持って行動する

東大で修士課程まで研究を続けましたが、「社会へ出て多様な価値観に触れたい」「誰もやったことがない研究を成功させたい」という気持ちが高まり、博士課程には進まず、サントリーに研究職として就職しました。当時考えていたのは青いバラをつくること。赤やピンクはあっても、青い色のバラは不可能だと思われ



かできない解析をしようと考え、一つの論文をまとめました。それが「ネイチャー」に掲載され、博士号を取るこ

「今の自分が答える!」 他人と違うことを 恐れなかったから。

自分なりの考えを大切にし、 周囲にもそれを伝えた。



ていました。だからこそ挑戦しようと思気込んでいたのですが、配属されたのはなんとお茶の研究開発部……。

飲料メーカーにおいて、研究開発部は花形の部署なんです。実際、居心地は良かったし、サントリーという会社の風土が好きでした。しかし、「このままでもいいのか」という悩みは頭の片隅にはずっとありました。それを職場の先輩に相談すると、「大学の研究室へ戻るのなら早いに越したことはない。会社に長くなるよ」と背中を押してくれました。

わずか1年間のサラリーマン生活を経て、東大大学院の博士課程へ再入学。そして、「線虫の嗅覚」を研究テーマにしました。嗅覚研究の第一人者はすでにアメリカにいましたが、自分にし

ほとんどの線虫研究者は、線虫をメカニズム解明の対象としかとらえておらず、研究成果を社会に役立て、新たなビジネスモデルを形成するところに興味を持っていないように感じました。日本人研究者に関して言えば、人と同じことをやって安心したい人が多いようにも思いますね。教科書通りにやっていると結果が違うと、「失敗したのは自分の手順や配合に問題があったからだろう」と考え、何度も教科書通りのやり方を繰り返す。しかし私は「予想した結果にならなかったということは、もしかしたらすごい発見をしたのかも」と考えます。大切なのは自分で物事を考え、信念を持って取り組むことです。実は私自身、その姿勢がぶれたことがあるんです。起業した当初、経営面をコンサルタントなどに任せ過ぎて、成果が出ませんでした。やはり教科書や専門家に委ねるのではなく、信念を持って取り組まなければ成果に結びつかないと感じました。

もう一つ、大切にしていることがあります。それは、自分の考えを他者に伝え、共感してもらうこと。すると仲間が増え、夢の実現に近づいていくのです。小学生のみんなにも、自分の夢をはっきりと周囲に伝えられる人になってほしいですね。



■千葉県柏市にある中央研究所内の様子。■小児ガンの子どもとその家族を支援する一般社団法人と合同会社を設立。その記者会見の様子。■会社の仲間たちとのバーベキュー。